

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態調査結果

(1) 身長

平成22年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長（県平均値。以下同じ。）については次のとおりである。（図1、表1）

① 前年度との比較（表1 p17）

男子の身長は、6歳、7歳、11歳、12歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.6 cm増加しており、最も増加しているのは6歳及び11歳の0.6 cmである。5歳、8歳～10歳、14歳、15歳及び17歳では、0.1～0.8 cm減少しており、最も減少しているのは14歳の▲0.8 cmである。

女子の身長は、7歳～14歳、16歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～1.1 cm増加しており、最も増加しているのは10歳の1.1 cmである。5歳、6歳及び15歳では、0.2～0.5 cm減少しており、最も減少しているのは15歳の▲0.5 cmである。

② 男女の比較（図1、表5 p21）

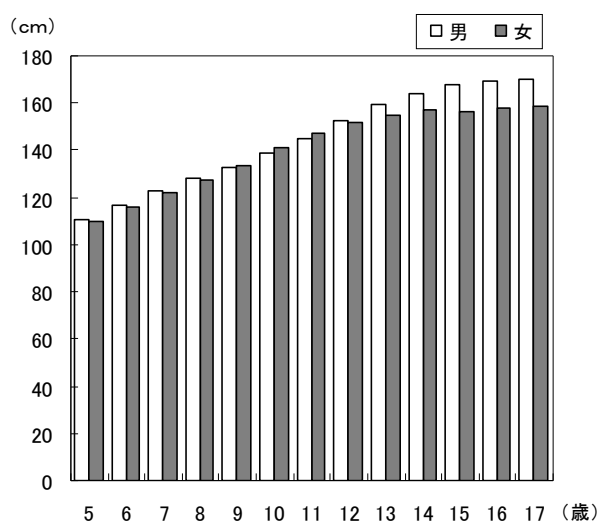
男女の身長を比べると、9歳では0.8 cm、10歳では2.2 cm、11歳では1.8 cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較（表4 p20）

全国平均値と比べると、男子では、7歳、11歳、12歳が全国平均値を上回っている。8歳～10歳及び14歳～17歳が全国平均値を下回っている。

女子では、5歳、7歳～14歳、16歳及び17歳が全国平均値を上回っている。6歳及び15歳が全国平均値を下回っている。

図1 年齢別 男女別 身長の平均値



(2) 体重

平成22年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重（県平均値。以下同じ。）については次のとおりである。（図2、表2）

① 前年度との比較（表2 p18）

男子の体重は、5歳～7歳、9歳、11歳、13歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.1～1.3 kg増加しており、最も増加しているのは11歳の1.3 kgである。8歳、10歳、14歳、15歳及び17歳では、0.1～1.4 kg減少しており、最も減少しているのは14歳の▲1.4 kgである。

女子の体重は、5歳、6歳、8歳～10歳、12歳～14歳、16歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～1.1kg増えており、最も増加しているのは10歳の1.1kgである。11歳及び15歳では、0.1～1.3kg減少しており、最も減少しているのは15歳の▲1.3kgである。

② 男女の比較 (図2、表5 p21)

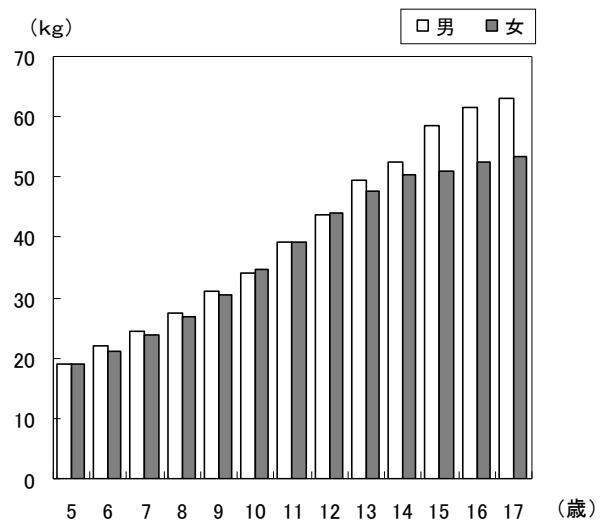
男女の体重を比べると、10歳で0.5kg、12歳で0.2kg女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較 (表4 p20)

全国平均値と比べると、男子では5歳～9歳、11歳、13歳及び16歳で、全国平均値を0.1～0.9kg上回っている。12歳、14歳、15歳及び17歳では、全国平均値を0.1～1.9kg下回っている。

女子では、5歳～14歳及び17歳で、全国平均値を0.1～0.6kg上回っている。15歳及び16歳では、全国平均値を0.1～0.6kg下回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値



(3) 座高

平成22年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高 (県平均値。以下同じ。) については次のとおりである。(図3、表3)

① 前年度との比較 (表3 p19)

男子の座高は、6歳、7歳、11歳～13歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.2cm増加しており、最も増加しているのは6歳、7歳、11歳及び12歳の0.2cmである。5歳、8歳～10歳、14歳、15歳及び17歳では、0.1～0.8cm減少しており、最も減少しているのは5歳の▲0.8cmである。

また、16歳の91.4cmは、昭和31年度の調査以降、過去最高となっている。

女子の座高は、7歳～11歳、13歳、14歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.4cm増加しており、最も増加しているのは10歳の0.4cmである。5歳、6歳及び15歳では、0.1～1.0cm減少しており、最も減少しているのは5歳の▲1.0cmである。

② 男女の比較 (図3、表5 p21)

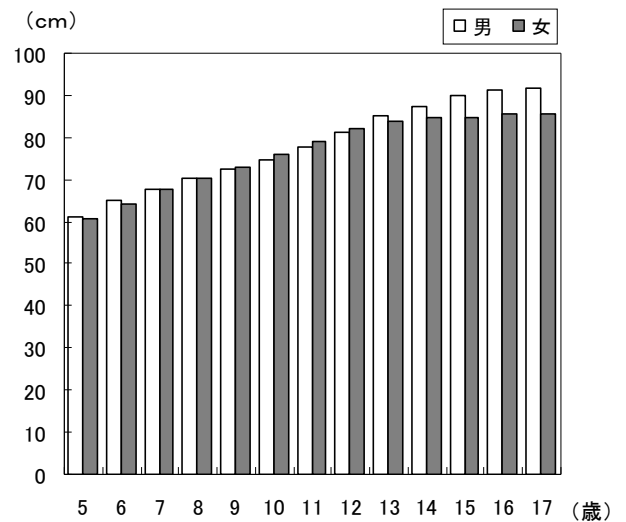
男女の座高を比べると、9歳では0.4cm、10歳では1.3cm、11歳では1.4cm、12歳では0.6cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較 (表4 p20)

全国平均値と比べると、男子では6歳、7歳、11歳及び16歳で全国平均値を0.1~0.3 cm上回っている。5歳、9歳、10歳、14歳、15歳及び17歳では、全国平均値を0.1~0.8 cm下回っている。

女子では、7歳~10歳、13歳及び14歳で全国平均値を0.1~0.2 cm上回っている。5歳、6歳、12歳、15歳及び17歳では、全国平均値を0.1~0.7 cm下回っている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値



(4) 県平均値における1年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の1年間の発育量を見てみると、次のとおりである。(図4、表6 p22)

① 身長

男子では、10歳時~12歳時に発育量が著しく増加しており、11歳時が最大となっている。

女子では、8歳時~10歳時に発育量が著しく増加しており、9歳時及び10歳時が最大となっている。

② 体重

男子では、10歳時~12歳時に発育量が著しく増加しており、11歳時が最大となっている。

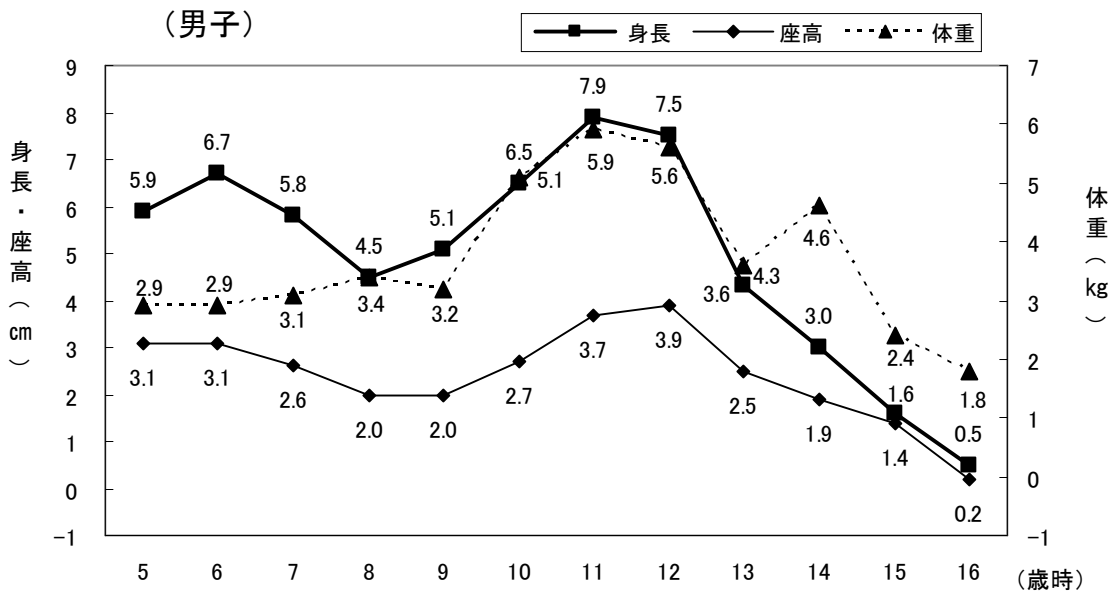
女子では、9歳時~11歳時に発育量が著しく増加しており、10歳時が最大となっている。

③ 座高

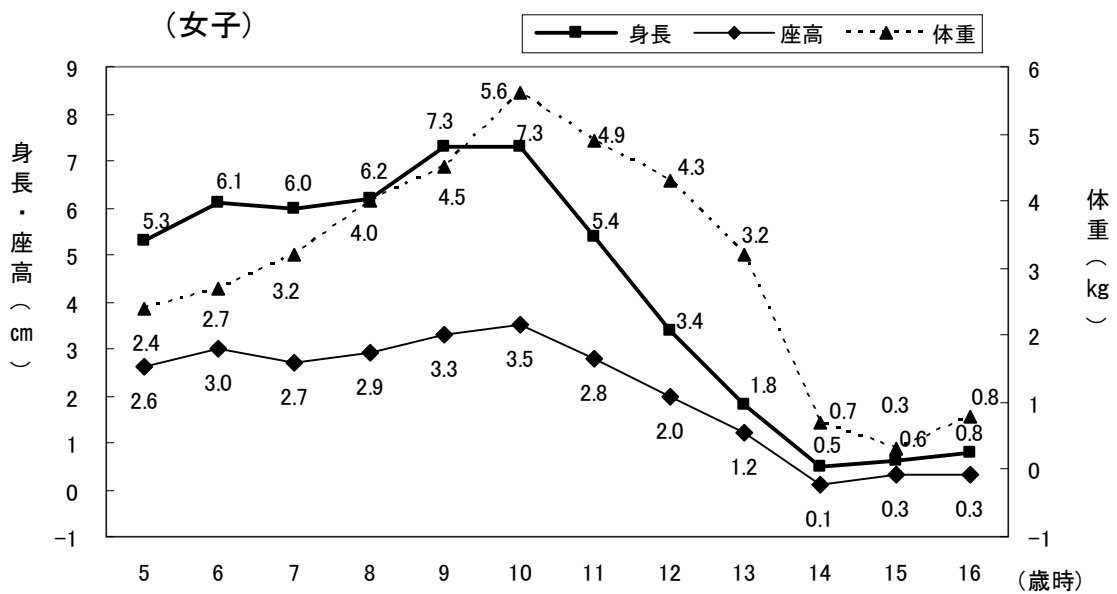
男子では、10歳時~12歳時に発育量が著しく増加しており、12歳時が最大となっている。

女子では、8歳時~10歳時に発育量が著しく増加しており、10歳時が最大となっている。

図4 県平均値における1年間の発育量



注) 1年間の発育量とは、例えば5歳時の発育量であれば、平成22年度の6歳の県平均値から平成21年度の5歳の県平均値を引いた数値。以下同じ。



(5) 県平均値における親世代（昭和55年度）との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和55年度と比較してみると、座高の5歳児を除き、男女とも各年齢において親世代（昭和55年度）を上回っている。（図5、図6、図7、表7 p23）

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は12歳及び13歳で、親の世代より3.4cm高い。

女子の身長を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より3.0cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は11歳で、親の世代より4.3kg重い。

女子の体重を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より2.5kg重い。

③ 座高

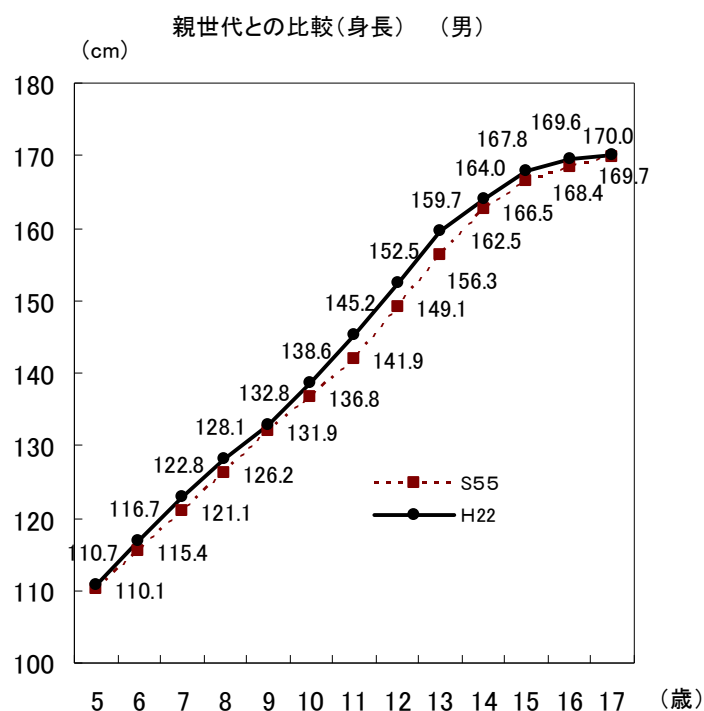
男子の座高を比べると、最も差がある年齢は13歳で、親の世代より2.2cm高い。

女子の座高を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より1.4cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ（下肢長）について比べると、男子でもっとも差がある年齢は5歳で2.0cm、女子も5歳で1.8cm親の世代より長い。

図5 県平均値における親世代との比較（身長）

身 長 (cm) (男)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	110.1	110.7
6歳	115.4	116.7
7歳	121.1	122.8
8歳	126.2	128.1
9歳	131.9	132.8
10歳	136.8	138.6
11歳	141.9	145.2
12歳	149.1	152.5
13歳	156.3	159.7
14歳	162.5	164.0
15歳	166.5	167.8
16歳	168.4	169.6
17歳	169.7	170.0



身 長 (cm) (女)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	109.5	110.1
6歳	114.6	115.6
7歳	120.4	121.9
8歳	125.9	127.5
9歳	132.0	133.6
10歳	137.8	140.8
11歳	145.0	147.0
12歳	150.3	152.0
13歳	153.3	155.1
14歳	155.3	156.8
15歳	155.6	156.7
16歳	156.6	157.8
17歳	156.6	158.3

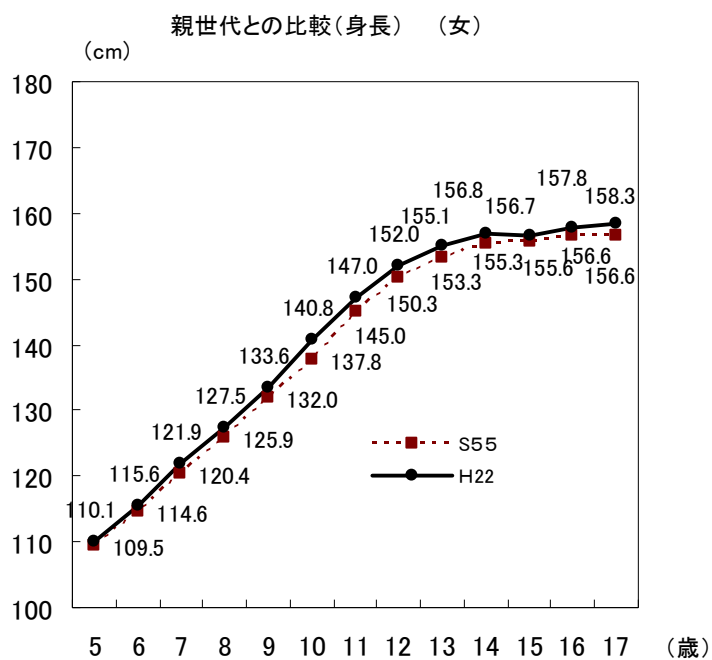
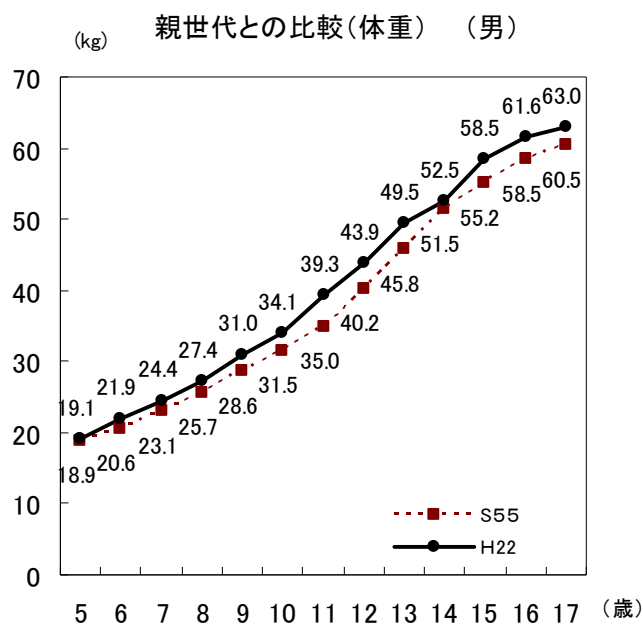


図6 県平均値における親世代との比較（体重）

体 重 (kg) (男)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	18.9	19.1
6歳	20.6	21.9
7歳	23.1	24.4
8歳	25.7	27.4
9歳	28.6	31.0
10歳	31.5	34.1
11歳	35.0	39.3
12歳	40.2	43.9
13歳	45.8	49.5
14歳	51.5	52.5
15歳	55.2	58.5
16歳	58.5	61.6
17歳	60.5	63.0



体 重 (kg) (女)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	18.6	19.0
6歳	20.0	21.2
7歳	22.5	23.8
8歳	25.2	27.0
9歳	28.6	30.6
10歳	32.1	34.6
11歳	37.2	39.1
12歳	41.7	44.1
13歳	45.8	47.6
14歳	48.8	50.4
15歳	50.3	51.0
16歳	52.2	52.6
17歳	51.5	53.3

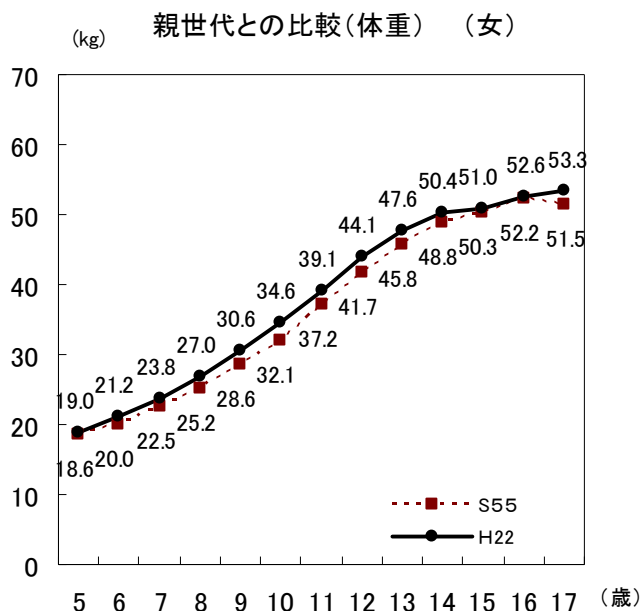
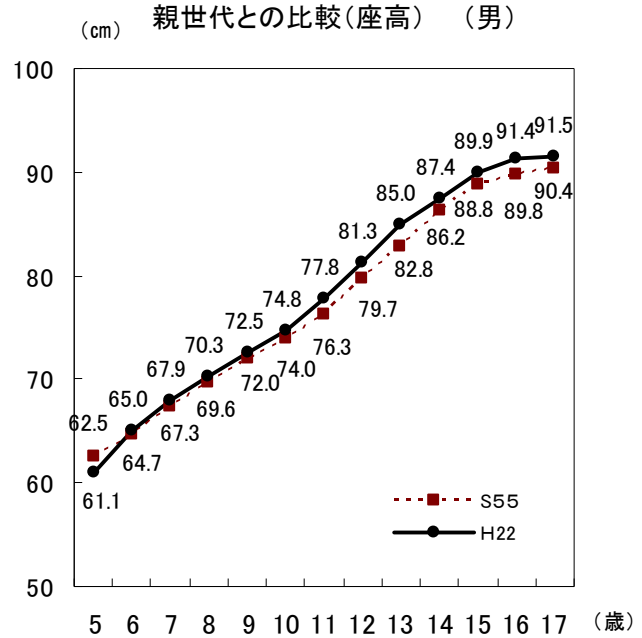
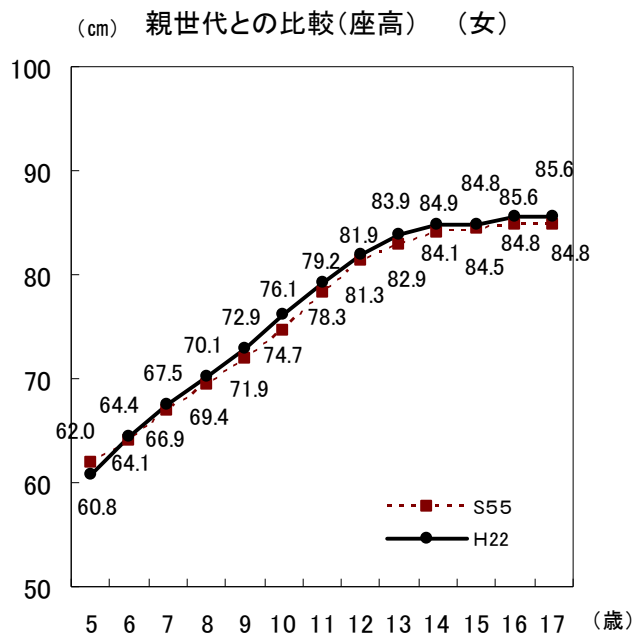


図7 県平均値における親世代との比較（座高）

座 高 (cm) (男)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	62.5	61.1
6歳	64.7	65.0
7歳	67.3	67.9
8歳	69.6	70.3
9歳	72.0	72.5
10歳	74.0	74.8
11歳	76.3	77.8
12歳	79.7	81.3
13歳	82.8	85.0
14歳	86.2	87.4
15歳	88.8	89.9
16歳	89.8	91.4
17歳	90.4	91.5



座 高 (cm) (女)		
	昭和55年度	平成22年度
5歳	62.0	60.8
6歳	64.1	64.4
7歳	66.9	67.5
8歳	69.4	70.1
9歳	71.9	72.9
10歳	74.7	76.1
11歳	78.3	79.2
12歳	81.3	81.9
13歳	82.9	83.9
14歳	84.1	84.9
15歳	84.5	84.8
16歳	84.8	85.6
17歳	84.8	85.6



(6) 肥満傾向児の出現率

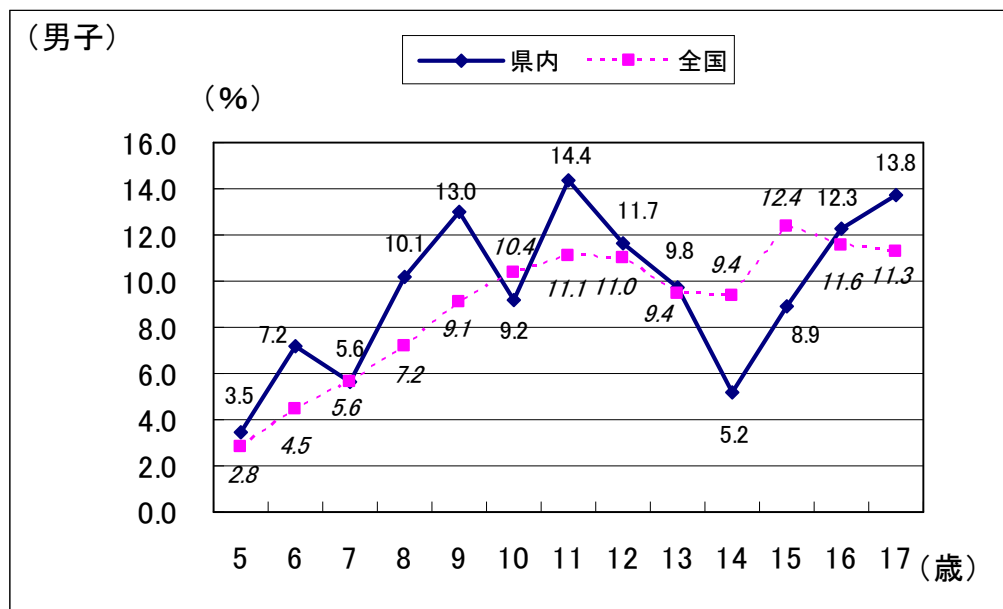
県内における肥満傾向児の出現率は、男子では8歳、9歳、11歳、12歳、16歳及び17歳で10%を超えており、11歳が14.4%と最も高くなっている。女子においては、すべての年齢において10%を超えておらず、10歳の9.3%が最も高くなっている。
(図8、表8 p24)

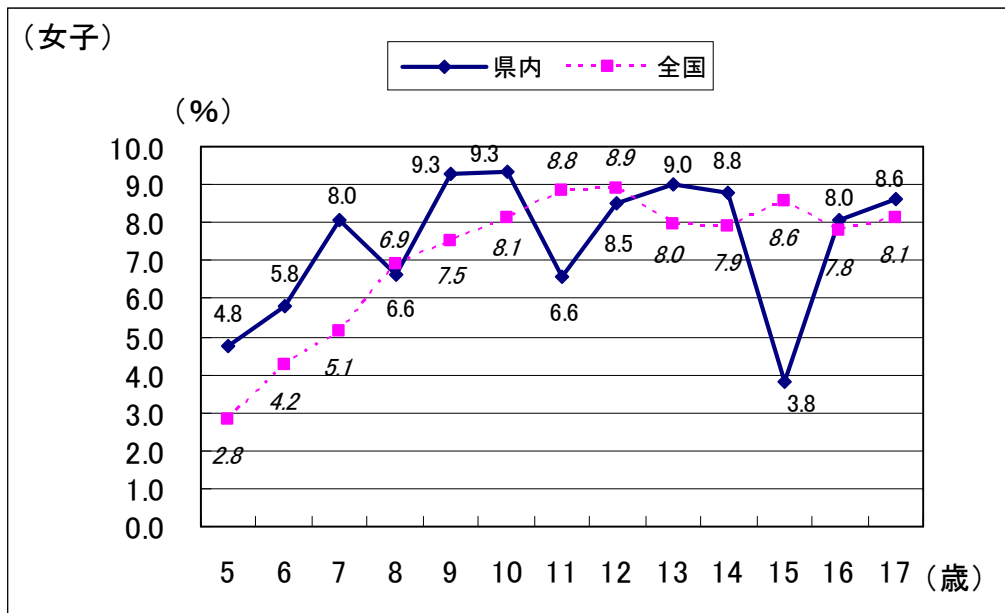
肥満傾向児の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳～13歳、16歳及び17歳で、全国平均値を0.4～4.0ポイント上回っている。9歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は4.0ポイントである。10歳、14歳及び15歳では、全国平均値を1.2～4.2ポイント下回っている。14歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は4.2ポイントである。

女子は、5歳～7歳、9歳、10歳、13歳、14歳、16歳及び17歳で、全国平均値を0.2～2.9ポイント上回っている。7歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は2.9ポイントである。8歳、11歳、12歳及び15歳では、全国平均値を0.3～4.8ポイント下回っている。15歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は4.8ポイントである。

(図8、表8 p24)

図8 肥満傾向児出現率の全国平均値との比較





(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が 20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

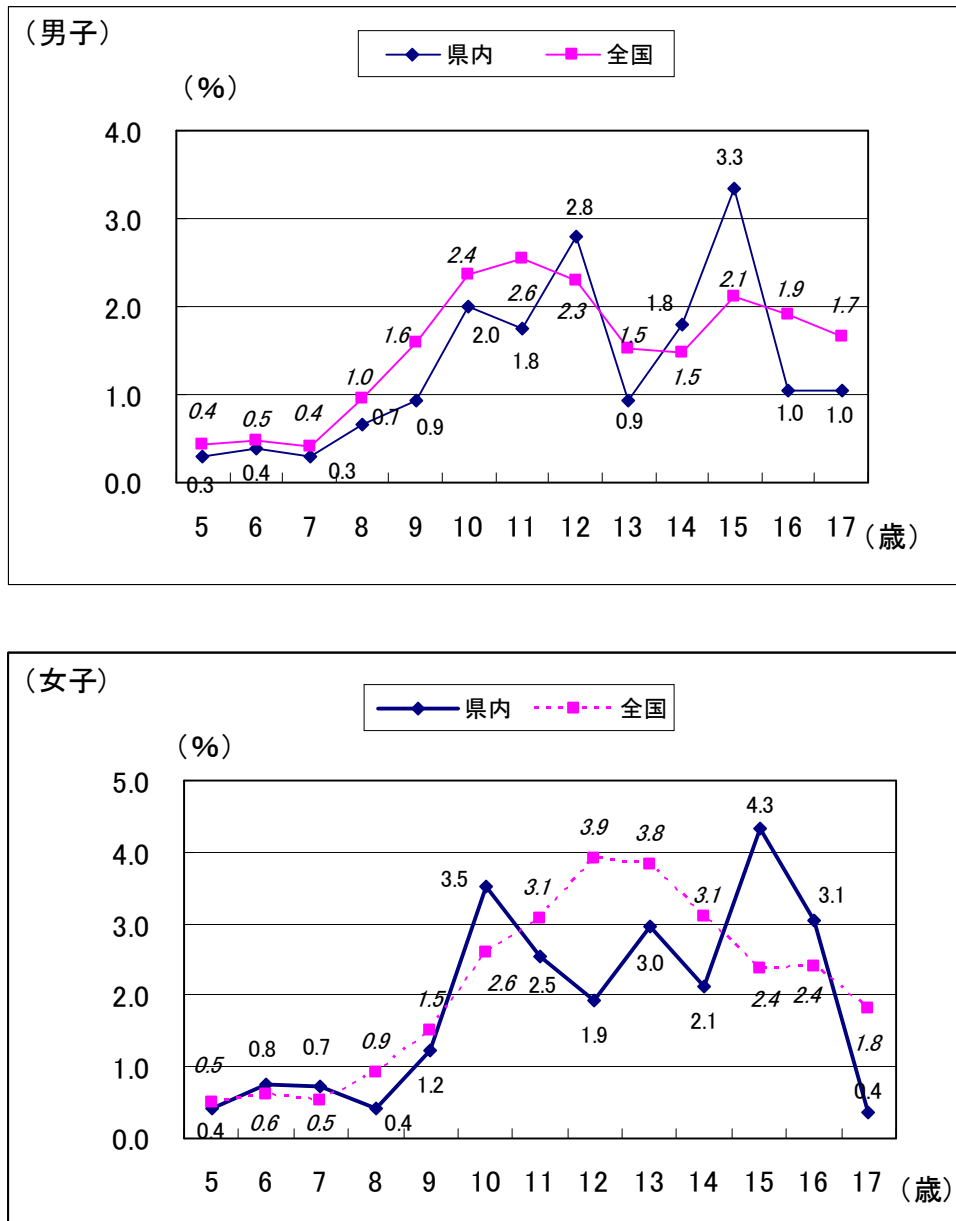
(7) 痩身傾向児の出現率

県内における痩身傾向児の出現率は、男子では 10 歳～12 歳及び 14 歳～17 歳で 1%を超えており、15 歳の 3.3%が最も高くなっている。女子では 9 歳～16 歳で 1%を超えており、15 歳の 4.3%が最も高くなっている。(図 9、表 9 p25)

痩身傾向児の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、12 歳、14 歳及び 15 歳で全国平均値の出現率を上回っている。15 歳において最も大きく上回っており、その差は 1.2 ポイントである。5 歳～11 歳、13 歳、16 歳及び 17 歳では、全国平均値の出現率を▲0.1～0.9 ポイント下回っている。16 歳において、最も大きく下回っており、その差は▲0.9 ポイントである。

女子は、6 歳、7 歳、10 歳、15 歳及び 16 歳で全国平均値の出現率を 0.1～2.0 ポイント上回っている。15 歳において、最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は 2.0 ポイントである。5 歳、8 歳、9 歳、11 歳～14 歳及び 17 歳では、全国平均値の出現率を▲0.3～2.0 ポイント下回っている。12 歳において、最も大きく下回っており、その差は▲2.0 ポイントである。(図 9、表 9 p25)

図9 痩身傾向児出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

平成22年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校(26.2%)、中学校(49.2%)となっている。(表10 p26)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校(0.3未満)及び中学校(0.3未満)を除いて、前年度を上回っている。(表10 p26)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、中学校(1.0未満 0.7以上)を除いて、全国平均値を下回っている。(表11 p26)

(2) むし歯(う歯)

平成22年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園(58.9%)、小学校(68.2%)、中学校(64.5%)、高等学校(66.9%)となっており、年齢別にみると、5歳(58.9%)が最も低く、9歳(76.5%)が最も高くなっている。

また、処置完了者の割合は、11歳及び15歳~17歳においては、未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、9歳を除き、その他の年齢では、前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を上回っている。(図12)

図10 むし歯(う歯)の者の割合

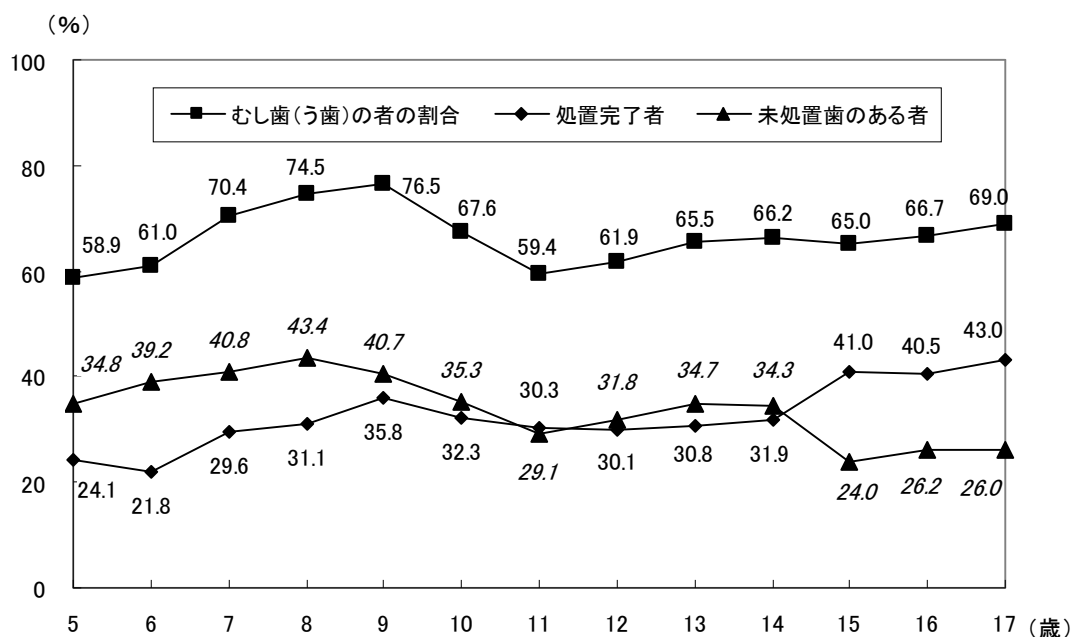


図11 むし歯(う歯)の者の割合の前年度との比較

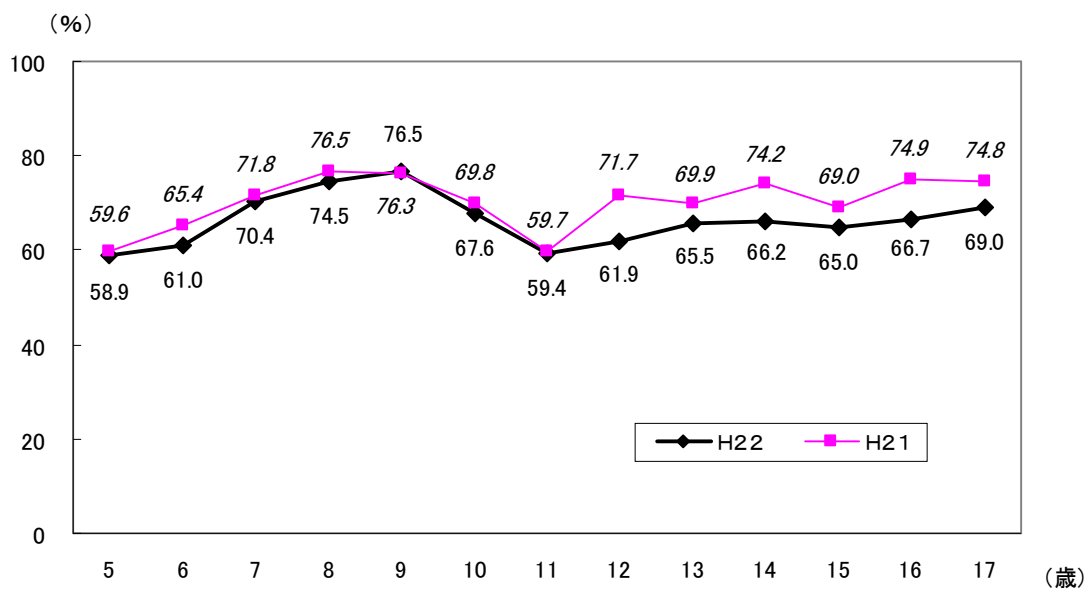
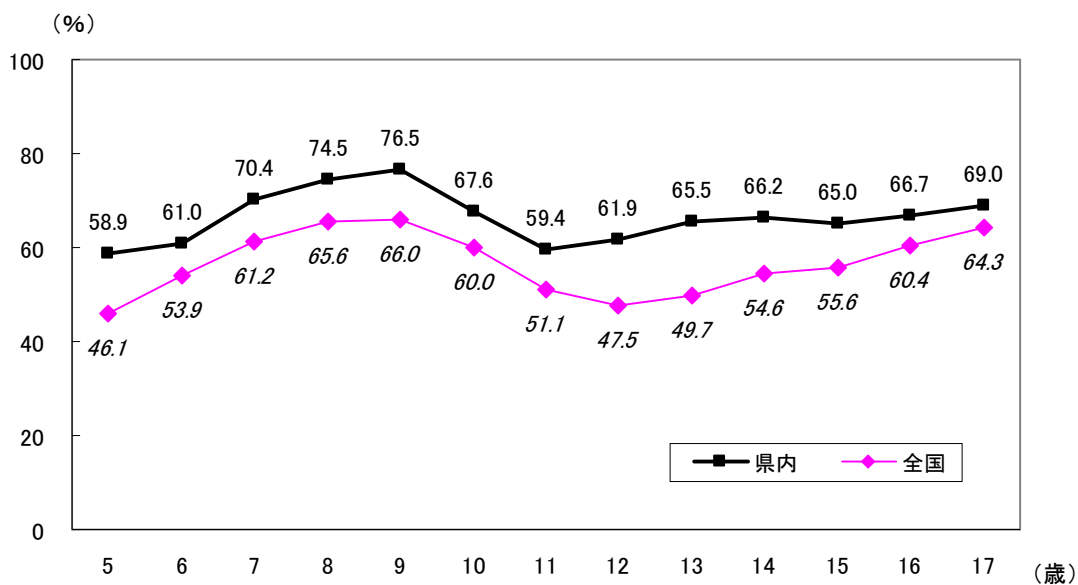


図12 むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較



(3) ぜん息

平成22年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園(3.0%)、小学校(2.6%)、中学校(2.2%)、高等学校(1.6%)となっており、年齢別にみると、5歳(3.0%)が最も高くなっている。

なお、6歳以降は年齢が進むにつれて低くなる傾向にある。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、5歳を除き、その他の年齢において、全国平均値を下回っているかまたは同数である。

図13 ぜん息の者の全国平均値との比較

